

～我が故郷は上桜田地区の
寺社シリーズ No.7～
「八幡社」

回
覧
⑧

今回は「八幡社」についてです。

場所は、上桜田橋の南西側、図-1の「ここ」の所
です。「八幡大神」をお祀りしているお社で、本町内
会1組の佐藤友美さんが管理しています。

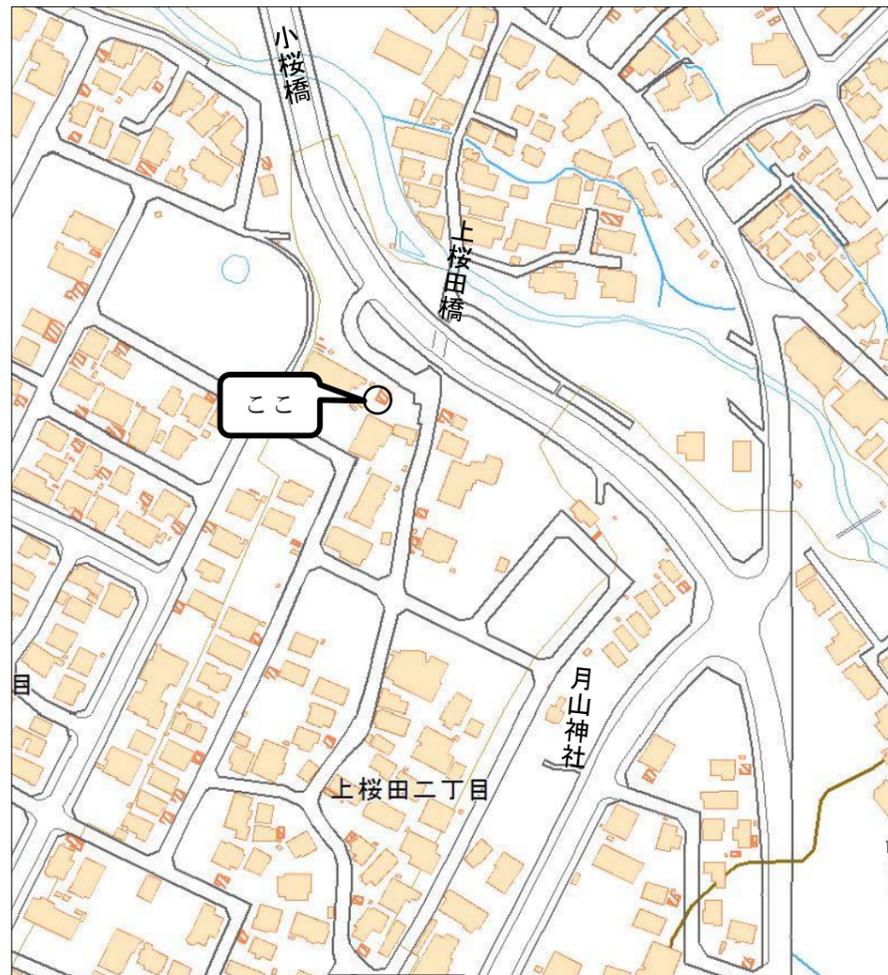


図-1

1. 本社の状況

広く見れば、境内は佐藤さんご家族がお住いの住宅と同じ敷地内にあり
ます。同社の正面は図-2のとおりです。正面扉を開けると図-3の
とおりの祭壇となります。



図-2

ご神体は御幣の後ろで直接は見られませんが、山形市鉄砲町の六槻八幡宮から勧請した「八幡大神（八幡大菩薩）」である、との事です。なお、創建などは不明のようです。



図-3

住職が先頭を切って神社の造営に寄付したのです。これらの事は、この八幡社が幅広く多くの人々から篤く崇敬されて来た様子を如実に物語ります。個人のものにこれだけの寄進者が集まって速やかなる再建（昭和

2016(平成28)年7月15日
上桜田町内会長

めて来ました。現在の八幡神社の
総本社は大分県宇佐市の宇佐神宮
(宇佐八幡宮)であります。

2. 特徴

一つ目は火災に遭った事です。

昭和50年代前半、この神社は一度焼失してしまっ
たようですが、ここに敢えて取上げる理由がありま
す。内部には、図-4のとおり、上桜田等の有志30
名もの寄付者の浄財で建て替えた事を記す御芳名の
懸額があります。また、最後に「別當 佐藤秀雄」
さん（前出友美さんの今は亡きお父様）と、記載さ
れています。筆頭には、耕源寺の住職であった第19
世武田素明さんの名前が記載されています。寺院の



図-4

この神様についてウィキペディア（フリー百科事典）等を参考に少し
触れておきます。古来よりの天神地祇の中で最も早い段階で仏教と遭遇
し、古神道・土着信仰・道教などの多様な宗教と融合が図られて、幅広
く庶民信仰にも浸透し、同神を祀る社は日本では一番多いと云われてい
ます。同神の働きで有名なのは、奈良は東大寺大仏（毘盧遮那仏）の造
営に際し、天津神・国津神の天神地祇を遣わして、絶大な神威力・影響
力を発揮し成功に導いたという歴史があります。また、清和源氏、桓武
平氏など全国の武家から武運の神（武神）「弓矢八幡」として崇敬を集

五十五年三月十五日）されたのです。前出別当さんは、とても信頼が厚
く人望に優れた人であった事が察しられます。

二つめは、図-3では分かり難いのですが、長短二つのこけしが奉ら
れています。前出別当さんがお元気な頃に伺っていましたが、かつて境
内にあった神木（杉）を造作したとの事です。とても簡素で、けばけば
しい模様などは彫刻していません。産土神、生産の神を象徴するもの
の一つとしての陽物に酷似しており、今は亡き別当さんの遊び心ではな
かったかと想像しています。



図-5



図-6

3. 境内の金毘羅権現等の石碑

図-2の場所に地続きで南西隣にある次ページ図-5の石碑群を紹介します。

(1) その石碑群の中で特に目立つのですが、図-6のように「金毘羅大権現」の石碑などが安置されています。

この金毘羅碑の正面右に「天保三 壬辰年」(1832年)、左に「九月吉祥日」と建立年月が刻字されており、また、同石左下に「施主 佐藤五郎左エ門」と読まれる刻字もあります。

(2) また、図-7のような、一つの石に□□信士・□□信女の連名(夫婦と思われる)刻字のものが2個あり、古い墓石一つは「文化十一戌十二月(1814年)」と刻字、他の石の刻字は風化しており、私にとって正確な判読は不可—と思われます。他に石灯籠などもあります。



図-7

<参考 その1>

なぜ、この地に金毘羅権現なのか、という素朴な疑問があります。そこで、前出辞典を参考に同権現の由緒等にちょっと触れてみます。香川県琴平町は讃岐国の琴平山(象頭山)の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神であり、本地仏は不動明王、毘沙門天、十一面観音とする、などの諸説があります。明治初頭の神仏分離が行われる以前は、象頭山松尾寺金光院(現在の金刀比羅宮)を総本宮とし日本全国の金毘羅宮、金毘羅権現社で祀られて来ました。したがって、金毘羅権現と象頭山の石碑は、同じ信仰心の象徴となります。そもそも、漁業航海の守護神となったのは、象頭山が瀬戸内海を航行する船の目印(今の灯台)となって来た事から信仰されたものです。漁業航海安全、大漁祈願、商売繁盛の神として、船乗り、海軍の軍人、水商売・酒屋など水に関する人達から信仰を集めたという事です。「山形県の金毘羅信仰(野口一雄著/原人舎)」なども参考にして見ると、金毘羅信仰碑は、海や川の近くだけではなく、農山村、山奥まで散在しているという事で、その理由を追って行くと火災防止、雨乞い、安産など様々な神仏や信仰と習合して

来たようであります。したがって、野口さんの指摘されている事を含めて考えるに、この地が直接海に面していなくても、河川であれ、海であれ、家族や親族が舟運に係っている中で、その安全航行を祈願した証として奉ったものの一つの表れ、ではないかと思っています。

<参考 その2>



図-8

この近くの金毘羅信仰碑について紹介します。場所は、山形市岩波は岩波大橋の北東側山裾に安置されている石碑群の中に、図-8上のような三社託宣碑があります。その裏には同図下のような「金毘羅」の刻字が見え、羅は土に埋まっています。託宣碑の建立は「文政九戌歳八月吉祥日」(1826年)と刻字、裏側下部にある「願主」の刻字は確認出来るが、氏名は埋まっていて判読不可であります。一人二役の顔を持った珍しい石碑です。三社託宣と金毘羅信仰との直接的な関連性があったのか、否か、興味のある処ですが、私には難題故にこれ以上想像がおよばない次第です。

【編集後記】

・ご協力を賜った佐藤友美さんご家族に感謝申し上げます。

・あらためてこの境内全体を考察して見ます。今でも、この八幡社の境内にある仏教色の濃い石碑群の状況から、昔は、この八幡社の境内に、修行僧、山伏あるいは祈祷師等が草庵を持ち、住まいしていたのではないだろうか。上桜田村における神仏習合の聖地の一つという存在だっただけだと思っています。さらに遡って、瀧山信仰隆盛を極めた頃の三百坊の一つであった、と思いたくなります。今に生きる神仏習合の証拠をここにも発見した思いでうれしく思っています。とても、歴史的意義のある希少価値の境内なので、行く末までも残置される事を希望しています。

以上

(上桜田町内会 総務担当 大沼 香)